北ドイツ・オルガン楽派 (Norddeutsche Orgelschule)
17世紀から18世紀前半にかけて北ドイツでは、オルガン奏者、作曲家が活躍します.

17世紀北ドイツの都市で、プロテスタント(Protestantismus, ルター派)教会に大規模なオルガンを設置し、オルガン音楽を盛んに演奏するようになります.

オルガンは、14世紀から独奏楽器として演奏されます. 15世紀末以降、ストップが飛躍的に発展し、規模も大きくなり、バロック時代を通して「楽器の王」となります. このため、17世紀のプロテスタント教会では、オルガンが重要な楽器となります. プロテスタント教会のオルガンは、天使の彫刻により装飾され、教会堂内の高い位置に設置されています.

ハンザ同盟の繁栄に後押しされ、北ドイツでは多くのオルガンを新設し、バロック時代の新たな作曲様式を身につけた音楽家を招き寄せることになります. 1687年、オルガン製作者のアルプ・シュニットガ (Arp Schnitger, 1648 – 1719) は、Hamburgの聖ニコラウス教会 (Ehemalige Hauptkirche St. Nikolai, 現在は跡) に4段鍵盤、67のストップからなる大オルガンを製作します. 17世紀北ドイツにオルガン音楽が展開されます.

Jan Pieterszoon Sweelinck (1562 – 1621)
Sweelinck はオランダの作曲家・Organistで、デーフェンテル (Deventer) 出身です. Sweelinckは、父親Pieter Swybbertszoonと同じく、AmsterdamのOude Kerk (旧教会)のOrganistに就いています. 44年とされるOrganistの経歴は、Sweelinckが15歳の1577年から始まることになります. 1577年から1580年までの教会の記録が無くなっていることから、確かめることが出来ません. Sweelinckに関するOude Kerk教会での記録は1580年以降になりますが、生涯、Organistの職位に就いています.

Netherlands鍵盤楽派の頂点を占め、対位法は複雑で、洗練され、Bach 以前の鍵盤音楽を代表する作曲家です. フランドル楽派の最後に位置しています. 声楽にも熟練した作曲家で、250曲以上の声楽曲を残しています. 様式的に Sweelinck の音楽は、Venezia の Gabrieli の作品のような豊かさや複雑さ、空間的感覚と、England鍵盤楽派のような装飾や、堅苦しくない形式を、合わせ持っています. 教師としての影響力も大きく、門下には、北ドイツOrgan楽派の作曲家を輩出しています.

Oude Kerk in Amsterdam

ハンザ都市のLübeckで、聖母マリア教会 (St Marien zu Lübeck)のFranz Tunder (1614 – 1667)、Dieterich Buxtehude (c.1637 – 1707)が活躍し、北ドイツ・オルガン楽派の頂点となります. Buxtehudeのオルガン作品はドイツ各地に影響を与え、高く評価されています.

1705年、若き Johann Sebastian Bach は400km離れた Arnstadt (Thüringen) から Lübeck を訪ねています. Buxtehude を手本として話を聞くために、“Abendmusik” を聴き、Lübeck の卓越したOrganistに会い、そして、おそらく、レッスンも受けたと思われます. Bachは、3ヶ月近く滞在しています. 教会の運営についても学んだようです. 北ドイツ・オルガン楽派の影響を受け、Bachの初期のOrganや鍵盤楽器向けのToccataには北ドイツの様式が見られます. やがて中部ドイツ、南ドイツの作曲様式と統合して行きます.

Jan Pieterszoon Sweelinck :
Variations on 'Puer nobis nascitur', or Variations upon 'Ons is gheboren een kindekijn', SwWV 315
Christmas聖歌 'Puer nobis nascitur' (御子がわれらに生まれたもう)による変奏曲
Organ : Matthias Havinga / Ahrend-organ (Oude Kerk, Amsterdam).

Oude Kerkには4台のpipe organが設置されています．最初のorganは1658年に製作されています．教会の翼廊の北側上に設置し、1965年Ahrend & Brunzema organ製作者が改修し、1658年製の収納筐体に収まっています．2代目の小型(cabinet) organは1767年に製作されています．3台目はドイツのChristian Vaterが 1724年に製作した欧州で最も優れたBaroque organとされて主Organとなっています．このorganは1738年の教会の改修に際して解体され、Casper Müllerが再製作時に強化しています．このOrganはVater-Müller organと呼ばれています．4台目は2010年にPisaのOrgani Pucciniが製作しています．2019年の春 Vater-Müller organは再改修され演奏に使われています．

Heinrich Schütz (1585 – 1672)

Schütz は Thüringen 州 Köstritzの出身 1585年10月9日に生まれ．1599年14歳の Schütz は Hessen-Kassel方伯Moritz卿 (Landgraf Moritz von Hessen-Kassel)に、音楽の才能を見出されてKasselの教会学校 (Kasseler Hofschule) の歌手となり、Collegium Mauritianum に入ります．1607年からは Marburg で法律を学ぶことができるようになり、同時にOrgan演奏と作曲の勉強も始めます．この時期の住まいは定かになっていません．

卒業後、Moritz卿の支援を受けて、1609年24歳の時イタリア、Veneziaの聖Marco大聖堂のGiovanni Gabrieliの弟子となります．1611年にマドリガル集第1集、SWV 1-19 Il primo libro de madrigali (opus 1, Venezia)出版します．師匠Gabrieliは1612年に亡くなります．翌1613年、ドイツに戻り Moritz卿の采配でKasselの第2オルガニストに就任します．

1615年、Sachsen選帝侯の宮廷に移ります．このSchützのDresden への移動は、既に1614年から方伯とSachsen選帝侯 Johann Georg I. の間で外交的な論争となっていましたが、最終的には選帝侯が押し切ることで1619年に決着が付きます．Dresdenでは、この時代のドイツを牽引していた Dresden 宮廷楽団 (Dresdner Hofkapelle, 現在のSächsische Staatskapelle Dresden)の指揮を委ねられます．当時の楽長 Rogier Michael は病気療養中で、Michael Praetorius が代行していました．初めは Praetoriusとともに指揮をしています．1617年に正式に宮廷礼拝堂つきの作曲家となり、1621年、Praetorius が亡くなった後、Schütz は1672年まで生涯楽長を勤めます．

Psalmen Davids (ダヴィデ詩篇歌曲集) 26曲からなる合唱曲集(SWV 22～47)
初版は1619年にDresdenで出版されます．詩のほとんどは、ルターによる翻訳、詩篇テキストを使用しています．1619年のダビデ詩篇歌集は方伯に献呈しています．この合唱曲集には、複数の合唱、楽器群を使っています．聖Marco大聖堂の合唱から生まれた cori spezzati (分離合唱)は、ドイツに渡り、複合唱(venezianische Mehrchörigkeit)と呼ばれるようになります．

SchützはVenezia楽派の複合唱様式、Concerto様式、通奏低音書法をドイツに普及させてます．

Heinrich Schütz : Musikalische Exequien 音楽による葬送

Musikalische Exequien (葬送の音楽), Op. 7, SWV 279–281は、Heinrich Schützが1635～1636年に書いた宗教音楽です．1635年12月に亡くなった, Henry II世 Reuß-Gera伯爵の埋葬のために用意しています．

I. Concert in Form einer teutschen Begräbnis-Messe
II. Motet Herr, wenn ich nur Dich habe
III. Canticum B. Simeonis Herr, nun lässest du deinen Diener

Henry II世は自ら聖書や16世紀のLuther派の書物からテキストを選び、Schützに曲を委託しています．最も長い第1部はSSATTBの6声の合唱、第2部はSATB, SATBの2重合唱、第3部はSATTBの5声の合唱にSSBの独唱3重唱の構成としています．通奏低音による伴奏、各声部に器楽(cornettoやsackbut等)を重ねるのは演奏側の選択です．

第3部では、2つのテキストを並列で使っています．低声側(Alto以下)が歌う、Latin語のNunc dimittis, Nunc dimittis servum tuum, Domineをドイツ語に訳し“Herr, nun lässest Du deinen Diener in Frieden fahren (主よ、あなたのしもべを安らかに去らせ給わん)と、高声(Soprano 2人)とBassのTrioが歌う、Latin語のCanticum Simeonis (シメオンの賛歌)のテキストをドイツ語に翻訳し“Selig sind die toten“ (死者は幸いなり)として使っています．このTrioのSoprano2人は天使(Seraphim : 熾天使(してんし))を、Bassは“beata anima“ (祝福されし魂)を表しています．Schützは、Trioを合唱と離して配置し、強弱についても対称的にすることを求めています．低声側のchoirには‘fortiter’(強)と‘submisse’(弱)を示す記述を用いechoeを模倣し、空間を劇的な演出として使っています．

この作品の内容は、Brahmsのドイツ語によるRequiemと比べると似た内容(歌詞)を取り上げています．そして、この作品がドイツ語による最初のレクイエムとなっています．

BrahmsのEin deutsches Requiem (op.45)では、Brahmsが聖書から歌詞を選んでいます．例えば、終曲(第7曲)は、黙示録14:13からの出典で、内容は「今から後、主にあって死ぬ者は幸いである(Selig sind die Toten)と同じ出足となっています．

Brahms : Selig sind die Toten, die in dem Herrn sterben, von nun an.
Schütz　: Selig sind die Toten, die in dem Herren sterben, (Chor 2)

Henry II Reuß, Gera 伯爵

Musikalische Exequien (葬送の音楽), Op. 7, SWV 281
III. Canticum B. Simeonis Herr, nun lässest du deinen Diener

The Marian Consort / David Fennessy
Monday, 17 October 2022 / University Chapel, University of Glasgow

バロック音楽(#2)　ドイツ・バロック

Musikalische Exequien (葬送の音楽), Op. 7, SWV 281
　　III. Canticum B. Simeonis Herr, nun lässest du deinen Diener

Intonatio (先唱)	
Herr, nun lässest du deinen Diener	主よ、今こそあなたはこのしもべを
Chor 1	
in Frieden fahren, wie du gesagt hast;	安らかに去らせて下さいます、御言葉の通りに
denn meine Augen	私の目が、
haben deinen Heiland gesehen,welchen du	あなたの下された救い主を見たのですから。
bereitet hast vor allen Völkern,	救い主はあなたが万民のためにお備えになった
ein Licht, zu erleuchten die Heiden,	異邦民を照らし出す光、
und zum Preis deines Volks Israel.	御民イスラエルの栄光です
	（ルカによる福音書 2:29-32）
Chor 2 (Seraphim 2, Beata anima)	（2人の天使と幸いなる魂）
Selig sind die Toten, die in dem Herren sterben,	主にあって死にゆく者は幸いなるかな
sie ruhen von ihrer Arbeit,	彼らはその労苦を解かれて休み、
und ihre Werke folgen ihnen nach.	そのわざは彼らの業は報われる
Sie sind in der Hand des Herren,	彼らは主の御手にあり、
und keine Qual rühret sie.	どんな責め苦も、彼らに届くことはない

Dieterich Buxtehude (c.1637 – 1707)

おそらく、ヘルシングボリ(Helsingborg : Skåne 地方 ; 当時は Denmark, 現在は Sweden) 出身です．ドイツで活躍するようになって dänisch : Diderik からドイツ的な名前 Dieterich にしています．最初の仕事は、ヘルシングボリ(Helsingborg)でOrganist (1657 – 1658)です．その後、1660 – 1668 の間、ヘルシングエーア (Helsingør)の聖マリー教会 (St. Mary's in Helsingør) で Organistを勤めます．1668年4月11日、Franz Tunder の後任で Lübeck の聖マリエン教会 (St. Marien-Kirche Lübeck)のOrganistになります．

↓ København

Buxtehude の声楽曲は100曲以上が残っていますが、重要な当時の手書き楽譜に含まれている曲は僅かで、20世紀初期まで、Buxtehude は鍵盤楽器の曲を多く作っていたと考えられていました．多大な Buxtehude の声楽曲は、広い範囲の音楽形式を用い、大規模な分割編成をとっています．室内楽の譜面で現存しているものは少なく、生存中に出版されたものは僅か14曲の室内ソナタだけで、多くの作品が消失しています．例えば、オラトリオのための台本は残っていてもスコアは残っていない場合が多く、ドイツ語によるオラトリオ作品が後の Bach や Telemann などが参考にし、元が残っていないという状況です．他にも1695年、Lübeckでのオークションでカタログが見つかり喪失作品が明らかになります．

蛇足 : Niedersachsen州のStade郡には、Buxtehudeという街があります. Buchenstätte(ブナの生えた場所)という言葉の語尾にhude(小さな港)の接尾語が付いた地名となっています. Buxtehudeの家系はこの街に由縁があるようです.

Heinrich Schützと北ドイツOrgan楽派の主たる活動地域

Jan Pieterszoon Sweelinck (1562 – 1621)に師事
1606 – 1608 Jacob Praetorius Jüngere : Hamburg(祖父は同名、Michael Praetoriusとは無関係)
1607 – 1609 Samuel Scheidt : Halle (Saale)
1607 – 1610 Paul Siefert : Danzig (Gdańsk (グダニスク), Baltic海沿岸 北Poland)
1611 – 1615 Gottfried Scheidt : Halle (Saale)
1611 – 1614 Heinrich Scheidemann : Wöhrden (ヴァデン), Dithmarschen, Schleswig-Holstein州
他

Jan Pieterszoon Sweelinck	(1562 – 1621)	
Heinrich Schütz	(1585 – 1672)	23
Dieterich Buxtehude	(c.1637 – 1707)	52
Georg Philipp Telemann	(1681 – 1767)	44

3. Dietrich Buxtehude, Toccata in F, BuxWV 156

Anne-Gaëlle Chanon,
orgue Schnitger / Martinikerk de Groningen, Pays-Bas

Martinikerk (Groningen)

Arp-Schnitger-Orgel

Martinikerkの西galleryに設置されているオルガンが最初に作られたのは1450年です．そして現在の形には、Arp Schnitger (1692)と、息子のFranz Caspar Schnitger (1729) 、Albertus Antonius Hinsz (1740)が拡張し、その後も後継のAlbertus Antonius Hinszが改良しています．52のstopと32'のPrincipalを持ち北欧州では有数のバロックオルガンとされています．

BuxtehudeのOrgan曲の特徴は、Pedalを積極的に使っている点にあります．Preludium und Fugue in g, BuxWV 150では、例外的に2声をpedalを使って演奏する例や、BuxWV137, 143の様に、Pedalのsoloから始まる例もあります．

また、Organ曲を含んだ鍵盤曲は即興的です．例えば、Fugeが繰り返されることも少なく、17世紀北ドイツでは幻想曲様式(stylus fantasticus/Phantasticus)と呼びます．これは、Lübeckを訪れたJ.S.Bach に影響を与え、Bachも ToccataとFugue に同じ技法を用いています．この自由さは、Sweelinckに由来する伝統と見ることも出来ます．

Buxtehudeの声楽曲は約120曲が現存しています．
婚礼用の8曲等を除き、他は革新派教会のための宗教曲です．当時、まだ宗教曲にKantateの呼称を用いませんので、独立した複数の楽章から構成される声楽曲になっています．

伊のConcertato様式に影響を受け、歌詞のphraseに分割し声楽と器楽の声部が協奏します．一方、当時の伊で確立していた da Capo ariaの形式は全く使っていません．歌詞の切れ目に即した簡潔な旋律は、初期Broque : 伊のMonteverdiやG. Carissimiに近い作風です．また、楽器の使い方も、やや古風な17世紀的な楽器の使い方を好んでいます．
Buxtehude自身は、viola da gambaの名手です．

4. Dietrich Buxtehude: Kantate “Herr, wenn Ich nur Dich Hab”, BuxWV 38
Soprano : Laura Heimes

Voices of Music
baroque violins : Elizabeth Blumenstock & Carla Moore,
baroque cello : William Skeen, violone : Farley Pearce,
organ : Hanneke van Proosdij, archlute : David Tayler.
St. Mark's Lutheran, San Francisco, 9 March 2013.

Herr, wenn ich nur dich hab,
so frag ich nichts nach Himmel und Erden,
wenn mir gleich Leib und Seele verschmacht.
So bist du doch Gott allezeit
meines Herzens Trost und mein Heil.
Alleluja.
(Psalm 73:25-6)

主よ、あなたさえこの世にあれば
私が天国と地上に尋ねることはなく
私の身も心も衰えたとしても
あなたは常に神です
私の心の慰めであり、私の救いです
ハレルヤ(褒め讃えよ)
[詩篇 73篇(アサフの歌)より25, 26]

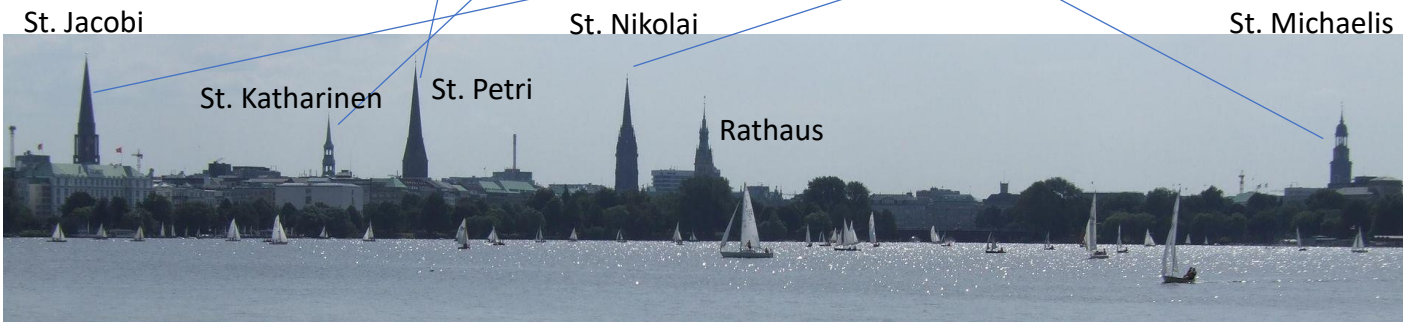
Georg Philipp Telemann (1681 – 1767)

Georg Philipp Telemannは、18世紀前半の音楽に作曲と音楽の概念に大きな影響を与えています．Georg Philipp Telemannは1697年からの若い時期をHildesheimで過ごしています．ここでの経験が彼の音楽家への発展を決定づけます．Gymnasium Andreanumでの4年間に、楽器を学び、“Singende und Klingende Geographie”を作曲しています．この後、Telemannは更に多くの作曲の依頼を受けるようになります．

以降、Telemannは音楽について広い範囲を独学で学びます．最初の大きな作曲活動は、TelemannがLeipzigの法律学校(Jurastudiums)で始まります．ここで、TelemannはAmateurのOrchestraを創立し、Operaの公演を先導し、大学の教会の音楽監督を始めます．
この後すぐに、Sorau(現在はPolandの西端の街、Żary)と Eisenachの宮廷から指名を受け、また、1712年、Frankfurt(am Main)の街から、街の音楽監督の指名を受け、2つの教会の楽長(Kapellmeister)となります．そして、作品の自費出版を始めます．1721年から、Hamburg市のCantor Johannei*と音楽監督(Director Musice)となり、ドイツの音楽家として最も尊重される職位に就きます．そして、早々にOperaの指導にも就きます．ここを起点として、Telemannは海外の宮廷との関係も増やし、上質で定期的な、一般に公開する演奏会を企画上演していきます．Parisに、1737年から38年の8ヶ月間滞在し、Telemannは多くの国でも有名な存在となります．

Telemannの音楽的な業績は、当時の音楽分野全体に渡って大きく発展させたことです．Telemannの音楽の特徴は、歌うような旋律、独創的な音色を使い、特に後期の作品では、当時としては斬新な和声進行の効果を使っています．器楽曲はフランスやイタリアの影響が強く、また、曲によっては、Polandなどの民族音楽的な影響も見受けられます．文化面が変化する歴史の中で、Telemannの作品は19世紀への橋渡しとなります．Telemannの作品についての総括的な調査研究は、20世紀後半に始まっていますが、作品全体を把握する難しさは継続しています．

*Cantor Johannei は、Gelehrtenschule des Johanneums (Johanneum学院)のKantorを指しています．創立以来、学校の教師だけでなく、Hamburgの教会の音楽についても責任者となっています．
5つのLuther派福音派教会(St. Petri, St. Katharinen, St. Michaelis „Michel“, St. Jacobi, St. Nikolai (Harvestehude地区))



Elbe川の支流、Alster川を堰止めた外アルスタ(Aussen-Alster)湖から見えるHumburgの各教会

Telemannは、3600曲以上の作品を残しています．音楽史の中で最多(ギネス記録)です．
作曲への逸話と、75年という作曲活動期間の長さに由来します．Telemannの作曲への取り組み方についての印象を、Friedrich Wilhelm Marpurgが記録しています．TelemannがEisenachの宮廷楽長であった時、Cantata 1曲を作るのに、公爵が到着するまでの3時間しか与えられなかったと記録しています．宮廷詩人がテキストを書き、Telemannが同時に音楽を書き始め、殆どの場合、詩人が最後の行を書き終わるより前に、音楽の最後を書き終えている．およそ一時間もあれば、作品は書き終わっている．

Telemannの遺産は、当時の音楽の分野全てに及んでいます．しかし、散逸している作品も多く、Telemannの初期の作品は、僅かだけが現存しています; 現存している作品の大部分は、FrankfurtとHamburgの時期の作品です．作品は、Martin Ruhnke (1921 – 2004)による作品目録 : Telemann-Werke-Verzeichnis (TWV, 1984-1999)に整理され、この中には、Werner Menke (1907 – 1993)による声楽作品目録 : Telemann-Vokalwerke-Verzeichnis (TVWV, 1982-1983)を含んでいます．

Telemannは、当時の変化する流行の音楽と、異なる民族の音楽の両方を作曲し、柔軟性を見せています．Telemannの作曲活動の中心は、率直で自然な感情表現を重んじる「多感様式」(Empfindsamen Stil, sensitive style)に変化しています．この傾向は、Baroque音楽の情緒論よりは、Rococo様式に近く、Wien古典主義への橋渡しとなっています．

Telemannの創作の中心となる本質は、歌うような旋律を高めることにあります．Telemann自身、作曲の要素として根本的に重要であると、度々力説しています．Mattheson は、Telemannは生涯美しい旋律を書く作曲家であった、としています．

Telemannの和声は、当時としては馴染みのない、挑戦的な和声進行を使っています．Telemannは、半音階と異名同音調を意図的に使い、そして、しばしば、急な転調や、通常使われない増三和音や減三和音を、交代和音として使っています．Telemannは、明らかなpoliphony音楽は、新しい音楽とは考えず、Polyphony音楽が相応しい場合に限り用いています．

バロック音楽(#2)　ドイツ・バロック

Telemannは、同輩と比べると技巧的な器楽曲を好まず、多くの人に親しまれ演奏される曲を残しています．作曲に必要な要素である楽器の扱い方によって、音色、効果を巧く引き出すことで音楽に魅力を与えています．おそらく、TelemannはTraversflöte やOboe、特にOboe d'amoreを好んだようです．TelemannはViolonceloを通奏低音以外でも、数は少ないですが使っています．時々ですが、1744年のLukas-PassionのAriaのように、変則調弦(Scordatura)も使っています．Telemannは、器楽の技巧的や速い演奏には興味を示していません．難易度の低い教則本を書いています．

Telemannの作品は、単独の管楽器の為の曲も多いですが、複数台の管楽器を組み合わせた曲も多くあります．勿論、必然に沿って作曲していますが、明らかに管楽器の使い方を開拓しています．

17世紀後期から18世紀にかけてのBaroque時代のEuropeで、著名な作曲家は、教会の礼拝用、王侯貴族や富裕階級の祝祭典用、娯楽用と多方面の音楽を用意していたため、必然的に多作になります．中でもTelemannの作品数3600曲以上というのは群を抜いています．

同時代のA. Vivaldiの作品数は800曲以上、Händelの作品数は600曲以上、J.S. Bachの作品数は1100曲以上です．
時代は異なりますが、F.J. Haydnで1000曲近く、J.M. Haydnで700曲以上、W.A. Mozartで900曲以上

曲集"忠実な楽長 (Getreuen Music-Meister)" 68曲の曲集について

Vocal pieces with continuo
- Lieder und Arien

Instrumental pieces with continuo
- Oboe Sonata, TWV 41:a3
- Sonata in Canon, TWV 41:B3
- Napolitana, TWV 41:B4
- Sinfonie à la françoise, TWV 41:h2
- Air trompette, TWV 41:C1
- Recorder Sonata, TWV 41:C2
- Polonaise, TWV 41:D4
- Pastourelle, TWV 41:D5
- Cello Sonata, TWV 41:D6
- L'hiver, TWV 41:d1
- Niaise, TWV 41:E2
- Pastorale, TWV 41:E3
- Recorder Sonata, TWV 41:F2
- Bassoon Sonata, TWV 41:f1
- Capriccio, TWV 41:G5
- Viola da Gamba Sonata, TWV 41:G6
- Suite for Oboe and Continuo, TWV 41:g4
- Sonata da chiesa, TWV 41:g5
- Trio Sonata, TWV 42:C1

Instrumental pieces without continuo
- Partia à Cembalo solo, TWV 32:1
- Ouverture burlesque, TWV 32:2
- Sonata for Viola da Gamba, TWV 40:1
- Duet for 2 Flutes, TWV 40:107
- Intrada-Suite for 2 Violins 'Gulliver's Travels', TWV 40:108
- Carillon for 2 Chalumeaux, TWV 40:109
- Menuet for 2 Horns, TWV 40:110
- Sonata for Flute and Violin, TWV 40:111

Works by other composers : ★Telemann以外の作曲家作品
- Bizaria und Giga (Francesco Antonio Bonporti)
- Chaconne in B minor by Johann Valentin Görner
- Trouble-Fête by Johann Valentin Görner
- Fantasia fürs clavier by Carl Johann Friedrich Haltmeier
- Pièce pour le clavessin by Hinrich Conrad Kreising
- Gique sans basse by Johann Georg Pisendel
- Suite in D major by Hinrich Conrad Kreising

ガリバー組曲 (アイルランドの風刺作家Jonathan Swiftのガリヴァ旅行記に基づく標題音楽, TWV 40:108) など全68曲の曲集です．ソナタ、組曲、声楽曲など様々な形式の曲を含み、当時名の知れた音楽家たちに作品を無償で提供するように呼びかけ、バッハやゼレンカなど他の作曲家の曲も含んでいます．

バロック音楽(#2)　ドイツ・バロック

Tafelmusik (食卓の音楽、原題 : 仏 Musique de table, 1733年出版)
宮廷の宴席で好まれた室内楽の曲集で、三つの曲集から構成しています.
各曲集に、管弦楽組曲、Concerto, Quartet, Trio sonata, solo sonataと各編成を掲載しています.

この作品は裕福な音楽愛好家向けに用意しています. 銅盤に刻印した作品は、8 tarlerで販売されています. — Johann Sebastian Bach が宮廷で標準的なオーケストラの演奏に対して、同じ金額の報酬と考えると、随分高い価格です. それでも、200を超える予約のリストが見つかっています. その他にGeorge Frideric Handel (London), Johann Georg Pisendel, Johann Joachim Quantz (Dresden), Michel Blavet (Paris)の名前も残っています.

第1集		
第1曲 序曲(管弦楽組曲)	e	TWV 55:e1 – 2 flute, strings., BC
第2曲 四重奏曲	G	TWV 43:G2 – flute, oboe, violin, BC
第3曲 協奏曲	A	TWV 53:A2 – flute, violin, violoncello, strings., BC
第4曲 Trio sonata	Es	TWV 42:Es1 – 2 violin, BC
第5曲 Sonata	h	TWV 41:h4 – flute, BC
第6曲 終曲	e	TWV 50:5 – 2 flute, strings., BC
第2集		
第1曲 序曲(管弦楽組曲)	D	TWV 55:D1 – oboe, trumpet, string., BC
第2曲 四重奏曲	d	TWV 43:d1 – recorder, 2 flute, BC
第3曲 協奏曲	F	TWV 53:F1 – 3 violin, violino grosso, BC
第4曲 Trio sonata	e	TWV 42:e2 – flute, oboe, BC
第5曲 Sonata	A	TWV 41:A4 – violin, BC
第6曲 終曲	D	TWV 50:9 – oboe, trumpet, string., BC
第3集		
第1曲 序曲(管弦楽組曲)	B	TWV 55:B1 – 2 oboe, fagotto, strings., BC
第2曲 四重奏曲	e	TWV 43:e2 – flute, violin, violomcello, BC
第3曲 協奏曲	Es	TWV 54:Es1 – 2 horn, strings., BC
第4曲 Trio sonata	D	TWV 42:D5 – 2 flute, BC
第5曲 Sonata	g	TWV 41:g6 – oboe, BC
第6曲 終曲	B	TWV 50:10 – 2 oboe, fagotto, strings., BC

5. Ouverture Suite in C major "Hamburger Ebb und Fluth, ハンブルクの潮の満干”, **TWV 55:C3**

Ouvertüre 短縮版
Akademie für Alte Musik Berlin
Dvořák-Saal, Rudolfinum, Praha　2015/05/21

ハンブルクの潮の満干(Hamburger Ebb‘ und Fluth, TWV 55:C3)は、管弦楽のための組曲で、水上の音楽(Wassermusik)とも呼ばれます．Telemannは1723年4月6日に、ハンブルグ海軍本部(Hamburgische Admiralität)の100周年の祝祭にこの曲を演奏しています．全10曲の序曲は大西洋を表し、続く9曲には、ハンブルグのエルベ川沿岸を含めた重要な港に、神学的な守り神と航海の主題を割り当て、音によって描き深さを与えています．

6. Kantate "Machet die Tore weit" (TWV 1:1074)
Aria: Jesu, komm in meiner Seele

Teresa Stich-Randall, sop,
Vienna State Opera O & C;
Wilfried Bottcher

2. Arie (Sopran)

Jesu, komm in meine Seele,	イエスは我が魂に入りて
laß sie deine Wohnung sein.	我が家とし．
Treib aus ihr der Sünden Wust,	罪を追い出し、
Ehre, Geiz und Fleischeslust,	名誉、貪欲、肉欲、
gönn ihr deiner Gnaden Schein.	あなたの慈悲の輝きを与え給え

7. Air de Trompette, TWV 41:C1
Trompette : Egbert Lewark
Orgel : Wolfgang Portugall
2021-08-18

8. Concerto grosso in D major, TWV 54:D3 より　第1楽章 Intrada
Konzert D-dur, TWV 54:D3 (1716) für 3 Trompeten, 2 Oboen, Pauke, Streicher und Basso Continuo

1. Intrada - Grave
2. Allegro
3. Largo
4. Vivace

Conductor : Trevor Pinnock
The English Concert
baroque trumpet : Mark Bennett, Michael Harrison, Nicholas Thompson
baroque oboe : Paul Goodwin, Lorraine Wood

9. Oboenkonzert f-Moll, TWV 51:f1 より第3楽章 Vivace (第1楽章 Allegro)
solo ob.: Bram Kreeftmeijer
ensemble : Combattimento Consort Amsterdam (1982)
vn.: Reinier Reijngoud, Quirine van Hoek, Johan Olof, Marjolijn Boersma
alt.: Marjolein Dispa, vc.: Wouter Mijnders, cb.: Erik Olsman,
chita.: Sören Leupold, cemb.: Pieter Dirksen,

het Zondagochtend Concert van 25 december 2016,
in Het Concertgebouw te Amsterdam. 日曜午前中の演奏会 2016/12/25

10. Konzert für 2 Hörner, Streicher und Bc in F-Dur, TWV 52:F3 より第1楽章、第4楽章

Ars Lyrica Houston concert - December 31, 2017
Zilkha Hall (Hobby Center, Houston Texas)
natural horn : Paul Avril, Loren Tayerle

Ars Lyrica Houston
1998年、Cembalist, 指揮者のMatthew DirstがHoustonに設立したBaroque Ensemble

11. Blockflötenkonzert C-Dur, TWV 51:C1

I. Allegretto
II. Allegro
III. Andante
IV. Tempo di Minuet

Solo alto Recorder: Dorothee Oberlinger
Bremer Barockorchester

Live recording in "Unser Lieben Frauen" Church, Bremen on February 13th, 2020

Aachen出身のDorothee Oberlinger (2. September 1969)はBlockflöte演奏家、SalzburgのMozarteumで指揮者と教授として活動中で、主に古楽系の演奏に専念しています.

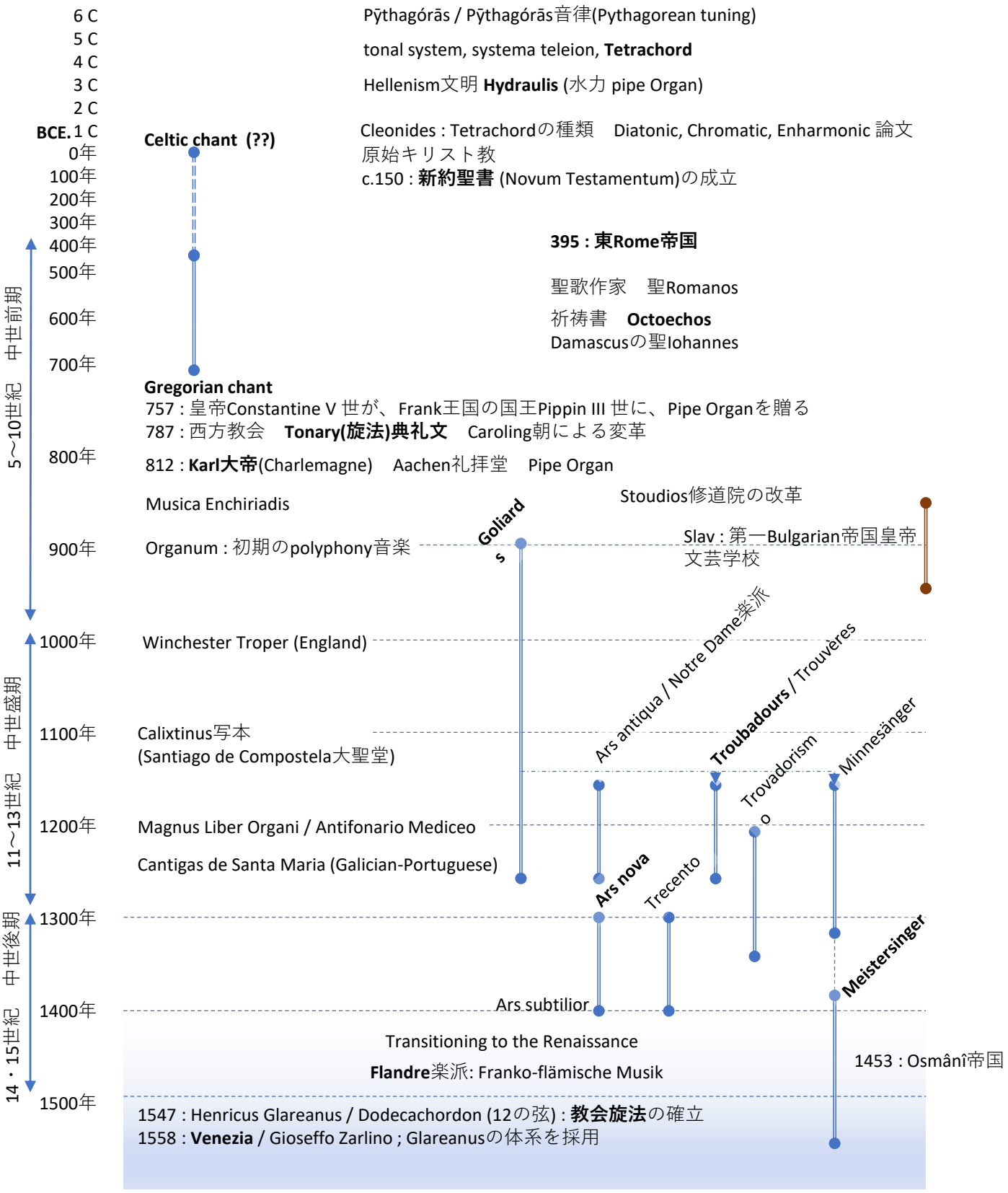
以下、時間に余裕がある場合

11. Oboenkonzert d-Moll, TWV 51:d1

I. Adagio

Solo alto Recorder: Heinz Holliger (1939/05/21 –)
Academy of St Martin in the Fields / Iona Brown,
OBE, (7 Jan. 1941 – 5 June 2004)
1982-12-01

Henry Wood Hall, London 1994

西洋音楽の歴史と背景

中世以前の音楽の全体概要